

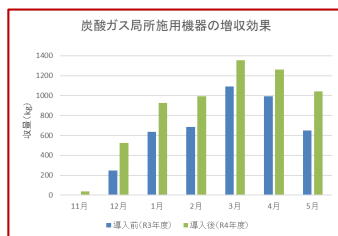
概要

- 三好地域（三好市、東みよし町）の「周年いちご栽培産地」で、近年の夏期高温により品質や収量が低下している。また、高齢化や担い手の不足により、産地の維持が難しい。
- そこで、環境制御技術の導入支援、担い手の確保に向けた就農支援制度の充実を課題とし、普及指導活動を実施。
- その結果、環境制御技術の普及が進み、農家の栽培技術の向上、新規就農者1名の確保につながり、産地の活性化に貢献。

具体的な成果

1 対象地域内での「あたりまえ」が変わった

- 現地指導講習会を通して、夏期の高温に対する正しい栽培管理手法を理解した。
 - 捕虫シートの導入支援を行い、効率的な防除体系が構築され、省力化につながった。
 - 炭酸ガス局所施用機器の導入により、収量が増加し、地域への普及につながった。
- ①導入による増収効果 **導入前（R3年産）約4t→導入後（R4年産）約6t**



2 対象者の意識が変わった

- 地域の生産者同士で情報交換の頻度が増加し、栽培技術の高位平準化が図られた。
- 環境モニタリング機器の導入支援を行い、データを根拠にした栽培管理へ意識が変化した。

3 新しい仲間が加わった

- 新規参入者向けの研修制度を整備し、新規参入者1名を確保。地域コミュニティへの参加にもつなげることができた。
- 対象地域内で、新規参入者を受入れ、育てる体制が整った。



普及指導員の活動

令和4年

- 三好農業支援センターが中心となり、生産者組合、農業法人、市町村を構成員とする「三好地域いちご生産支援協議会」を設立。
- 徳島県単独事業「農山漁村未来創造事業」を活用し、促成いちごハウス4軒に炭酸ガス局所施用機器を導入。同時に、環境モニタリング機器を導入し、モニタリングデータを活用した農業の指導を開始。

令和5年

- 適切な栽培管理に繋げるため、希望のあった8農家に対し養液分析を月1回実施
- デルフィー・ジャパンの講師を東みよし町水の丸地区に招き、現場で直接指導を行う「水の丸現地指導講習会」を開催。

令和6年

- 「三好地域いちご生産支援協議会」に、資材メーカー、JAを新たに加え「にし阿波いちごタウン構想コンソーシアム」へ再編成。いちご農家の生産力強化と担い手確保を目的に活動を開始。



普及指導員だからできたこと

- ・ 課題解決に必要な人材、組織を、普及員が持つコーディネート力で組織化し、運営したことで、円滑な普及活動につなげることができた。
- ・ 地域外（県内外）の普及員との情報交換を行い、多くの知見を得ることができ、先進技術の普及推進につなげることができた。

徳島県

三好地域における周年いちご栽培産地の育成

活動期間：令和4～継続中

1. 取組の背景

三好地区（三好市、東みよし町）は、平坦地での「冬春いちご」と、高冷地での「夏秋いちご」を組合せて「いちご周年栽培」ができる全国的にも希少な産地である。

しかし近年、気候変動による夏期高温により、品質や収量が低下している。また、高齢化や担い手の不足が加速し、産地の維持が難しくなっている。このような現状を変えるためには、従来の栽培方法の見直しと先進技術の導入を行うとともに、担い手対策として、新規就農者の農業参入を進める必要がある。

そこで、三好農業支援センターでは、環境制御技術の導入支援、担い手の確保に向けた就農支援制度の充実を課題として位置づけ、普及指導活動を行うこととした。

2. 活動内容（詳細）

①従来の栽培手法の見直し

夏期の高温により夏秋いちごの生育不良（芯止まり、果実の軟化等）となっている現状に対応するため、施設栽培において先進的な技術と知識を有するデルフィージャパンの講師を、水の丸地区に招き、現地の栽培実態を踏まえた現地指導や栽培講習会を実施した。



図1 現地指導講習会の様子

②環境制御技術の導入支援

これまで、いちご栽培においては、農家が昔ながらの経験や勘に頼った栽培管理を行っており、農家によっては栽培管理にばらつきが生じ、適切な対応を行えていない事例があった。そこで、ハウス内の環境を数値化する装置「プロファインダー」や「みどりクラウド」を導入し、データをもとにした栽培管理を行うための研修会を開いた。

また、平坦地で栽培する「冬春いちご」においては、光合成促進による増収を図るため、炭酸ガス局所施用機器の推進に努めた。

④就農支援制度の充実

三好地区では、新規就農者や、県内外からの移住就農者を広く募集しているが、受入れ体制や研修制度が十分に整っていないことが課題となっていた。そこで、地域の核となる農業法人「ミカモフレテック」と連携し、新規就農者の受入れ体制を整え、栽培から販売までの支援体制を構築した。

③グリーンな栽培体系への転換

経済性や生産性に留意しつつ環境負荷の低減を図るため、捕虫シート（アザミウマ類用）の導入支援を実施した。また、現場に捕虫シート資材メーカーの担当者を講師として招き、効果的な使用方法を指導してもらい、環境にやさしい農業の推進に努めた。

3. 具体的な成果（詳細）

①従来の栽培手法の見直し

水の丸地区での現地指導・栽培講習会開催を通じて、農家の基本技術の学び直しができた。講義の中で指導された基本的な技術習得が進み、作業一つ一つの意味を考える農業者を育成することができた。また、農家グループの中で、お互いの生育状況を報告しあい、情報共有することにより、栽培技術の高位平準化が図られた。

②先進技術の導入支援

環境モニタリング機器で測定されたデータは産地全体で共有され、適正な栽培管理に活かすことができた。

また、炭酸ガス局所施用機器の導入により、前年比で最大 1.5 倍の「増収効果」と「生育の前進化」が認められた農家もあった。さらに、栽培管理情報を共有することで、産地全体の収量向上につながった。

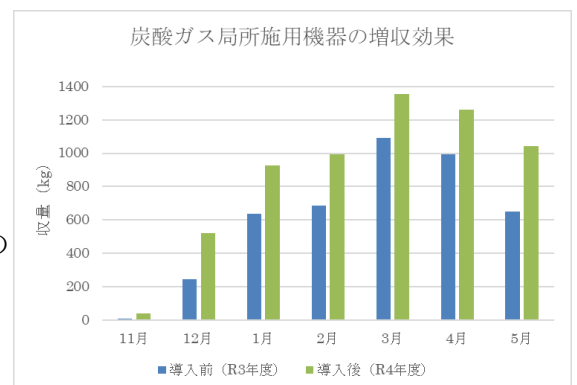


図2 炭酸ガス局所施用機器の増収効果

③グリーンな栽培体系への転換

捕虫シートの導入により、約 15%の化学農薬の使用低減が図られた。また、ヒラズアザミウマの予察にもつながり、防除効果が向上した。講師からは、効果的に防除を行える設置場所や、シートが丸まらず長く使用するための工夫などを指導してもらい、捕虫シートの普及につながった。

④就農支援制度の充実

令和5年度に上記法人が就農者1名を研修生として受け入れ、栽培技術指導を行った。同年10月に独立就農し、いちご栽培を実施している。

本人からは「農業に関する知識や技術を指導してくれたおかげで、スムーズに就農できた。先輩農家も紹介していただき、就農後も指導してもらって助かっている。」と、支援に対して謝意をもらっている。

4. 農家等からの評価・コメント (三野町 A 氏)

夏期の高温に対応するための、正しい栽培管理技術を習得することができた。地域内の農家とも情報共有しながら、生産力のさらなる強化をめざしたい。また、就農支援について、自分が就農する際は技術面や経営面で不安なことが多く、安心して就農できなかった。今回の取組のような支援制度を継続して、新規就農者が安心して就農できる体制を整えていてもらいたい。

5. 普及指導員のコメント (三好農業支援センター・主事・渡辺立哉)

今回の取組で、産地全体で栽培への意識が向上するきっかけが生まれた。今後も継続して指導、支援を行い、更なる課題解決に取り組む。

6. 現状・今後の展開等

これまでの取組で得られた、データを活用した栽培管理手法や、環境制御技術を地域全体へ普及するとともに、さらにデータを蓄積し、精度を上げていきたい。

また、周年いちご栽培の経営モデルの確立、新規就農者支援のさらなる拡充、情報発信力の強化により、「にし阿波いちごタウン」を形成し、産地のさらなる拡大を目指す。



図3 「にし阿波いちごタウン構想コンソーシアム」設立会



図4 いちご就農研修制度
「にし阿波いちご塾」募集リーフレット